

平成24年度 社会を明るくする運動

7月は「社会を明るくする運動」強調月間でした。この行事の一環として、児童・生徒の皆さんへ作文を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、受賞作品が決定しましたので、優秀・最優秀賞を受賞した作品を紹介します。(最優秀賞のみ全文掲載)

最優秀賞

○小学校の部

別府小学校 6年 阿座上 蓮
「あいさつは、大切」

○中学校の部

於福中学校 3年 波多野 彩加
「私の『居場所』」

「あいさつは、大切」

別府小学校 6年 阿座上 蓮

ぼくは、あいさつをすることは人と人の心をつなぐとっても大切なことだと思います。理由は、ぼくがまだ小学校低学年のころ知らない人にはいさつをするのがすごく苦手で、いつも小さい声でしかあいさつができず、あいさつはきらいでした。だけど、ある日の登校中、知らないおばあさんにあいさつをされてぼくはとてもうれしい気持ちになり、その日は朝からとてもすがすがしい気持ちのいい一日になりました。

それからぼくは、だんだんとあいさつをするようになっていき、声も少しずつ大きくなっていきあいさつをする事に自信がついていきました。そして、毎朝登校していくうちにそのおばあさんとも何度も顔を会わせるたびに、元気よくあいさつをし、名前を覚えてもらえるようになりました。

そしてある日、お母さんから「蓮はよくあいさつをするんだね」と言わわれ理由を聞いてみるとお母さんが地区の行事に参加した時「蓮君はよくあいさつしてくれる」と言われたそうで、ぼくはとてもうれしくて本当にあいさつは大切な事だとあらためて感じました。

ぼくの学校には、見守りパトロー

ル隊という、ぼくたちの登下校中に横だん歩道をわたる時に安全に見守って下さる地いきの方たちがいます。ぼくは、いつも大きな声であいさつをすると見守り隊の方も元気な声で「おはよう今日も一日元気に行ってらっしゃい」とあいさつをして下さるので、ぼくも「今日も一日がんばろう」と言う気持ちになります。

また、元気よくあいさつをすることでいろんな体調の変化も分かるので、地いきの人にもあいさつの声で「今日は少し元気がないな」とか分かるので、これからも元気いっぱいあいさつを続けていきたいと思います。

ぼくは、あいさつは地いきの方とのコミュニケーションもとれ、いろんな方との交流もでき、どんどん人の輪が広がっていくので、犯罪防止にもつながっていくとぼくは思います。

今、よのではいろんな犯罪が起こっていて、ぼくも登下校中に一人で帰る時もあり、少しこわいなあと思う時もあります。

でもあいさつをすることで地いきの人たちとのつながりもあり、みんながあたたかい目で見守って下さっているので、とても心強いです。

ぼくは、あいさつをすることで人と人がつながり、どんどんそれが広がっていき、地いきの人みんなが「見る。見守る。」町になっていってほしいと思います。

あいさつをするのが苦手な人に、

ぼくは言いたいと思います。自分から笑顔であいさつをすると、相手もすごくうれしい気持ちになります。あいさつは、小さなことだけどとても大切な事だと思います。ぼくは、これからもずっと元気な声であいさつを続けていきたいと思います。こうして、社会が明るくなっているてくれるといいなあとと思いました。

「私の『居場所』」

於福中学校 3年 波多野 彩加

私の住んでいる町は、とても穏やかで自然豊かなところです。お正月には新年登山、お盆には夏祭り、秋は町民運動会と沢山の行事があります。これらの行事には、子供からお年寄りまでの方までさまざま年代の方が参加します。もちろん、私も参加します。しかし、子供が大きくなるにつれてこうした行事に参加しなくなっています。すると、地域と関わる機会も減っていきます。いつの間にか地域に「居場所」がなくなっている…こうして、自分の身にトラブルが重なっていくと「罪を犯す」という行動に走ってしまうのではないかでしょうか。

こうしたことを起こさないようにするためにには、地域の人との交流などで自分の「居場所」をつくることが大切だと思います。

最優秀作品の紹介

優秀賞

○小学校の部

於福小学校6年 山田 裕葵
「いじめのない学校生活にするために」

厚保小学校2年 安部 勇心
「やさしい人になりたい」

私の住む町では、お正月などの行事以外にも「子供教室」というものがあります。これは、町子連主催などの方が関わって、毎月土曜日に主に公民館で行う、小学生を対象としている教室です。そこでは、みんなでオムライスやケーキなどを作ったり、時には外へ出てグランドゴルフやごみ拾いをしたりなど、いろいろな体験ができます。体験しながら、この町に住んでいる子供や町子連の役員さんである大人と交流することもできます。私は、小学校三年生のころから、よくこの教室に行っていました。それまであまり交流の無かった地域の大人の人と話したりするようになりました。学年が上がるにつれて、この教室を開いてくださることに感謝できるようになりました。

他にも、季節の変わり目の時期にはいつも花植えがあります。そこで、地域の人みんなが集まって作業をします。わたしの地域では、終わったらいつもパンとジュースをもらえることになっています。私は、初めはそのパンとジュースを目当てに行っていましたが、花植えに行く度に「大きくなったね、今年は何年生かね。」と地域の人が声をかけてくださるので、私はそれが嬉しくて、いつの間にか地域の人と話したくて行くようになりました。あるとき、地域の人が「最近あいさつの元気がいいね。」「そうそう、気持ちがいい。」と、ほめてくださいました。このとき、私

○中学校の部

厚保中学校1年 河内 愛依里
「関わるということ」

於福中学校3年 草場 大彰
「僕たちがすべき大切なこと」

はほめられて恥ずかしかったけれど、とても嬉しかったです。いつも見てくださっているんだだと強く実感しました。

私は、これらの行事を通じて、いろいろな体験をし、周囲の人たちとの人間関係を深め、この町に自分の「居場所」を作ることができたと思います。だから、積極的に地域の行事には参加してほしいと思います。

最初は、地域ぐるみの行事に参加するだけでもいいと思います。だんだん地域の人と一緒にになっておみこしを担いだり夏祭りの片付けを手伝ったりすれば、よりいっそうその地域の人間であり自分の「居場所」があることを実感できると思います。そして、次も参加しようかな、手伝つてみようかなと思い、地域にも貢献できるようになれると思います。

みなさんも、一度振り返ってみてください。自分の住んでいる地域の人と交流はあるか、「居場所」はあるか、ということを。それが犯罪をなくす第一歩なのではないでしょうか。

同和問題啓発週間について

11月11日日から17日土までは同和問題啓発週間です。

同和問題は、生まれたところや住んでいるところで様々な差別を受けるという人権問題です。

県や市町では、県民一人ひとりが同和問題に対する正しい理解を深め、主体的に取り組むことができるよう、教育・啓発活動を行っています。

問合せ先

人権・男女共同参画推進室
[☎0837(52)5228]
県人権対策室
[☎083(933)2810]

11月は
「児童虐待防止月間」です。

虐待を受けたと思われる子どもを見つけた時やご自身が出産や子育てに悩んだ時には、児童相談所や市町村の窓口に連絡してください。

問合せ先

地域福祉課
[☎0837(52)5228]
児童相談所全国共通ダイヤル
[☎0570(064)000]